

# 算数科 小学校 3年

単元名 「2けたをかけるかけ算の筆算」  
啓林館 「わくわく算数3年下」

## 単元の流れ（全6時間）

【第1次 第1時】

### 主な学習内容

≪ 2位数×1位数の計算の仕方を復習する。≫

- ・ かけ算の意味(規準量のいくつ分)を確認する。
- ・ 筆算の考え方と仕方をつなげて考える。

### 「活用」の力育成のために

- ・ 第2学年で学習したかけ算の意味を復習することで、次時に、「同じ数」の「いくつ分」の考え方を想起させ、2位数×何十の計算の仕方を考えることができる。

単元の詳細  
はこちら

CLICK

【第2次 第2時】

### 主な学習内容

≪ 2位数×何十の計算の仕方を理解する。≫

- ・ 1個23円のみかんを30個買う時の代金を考える。
- ・ 図から式を導き出す。

### 「活用」の力育成のために

- ・ 次時につなげるために、 $23 \times 30 = 690$ を筆算の形にし、筆算のイメージを持ちやすくする。



【第2次 第3時】(本時)

### 主な学習内容

≪ 2位数×2位数の計算(部分積が2けた)の仕方を理解する。≫

≪ 筆算の考え方を知る。≫

- ・ 1個23円のみかんを34個買う時の代金がいくらになるか考える。
- ・ 2位数×何十の計算の仕方を利用する。
- ・ 筆算の仕方を知る。

### 【単元目標】

- 2位数をかける筆算が、既知の計算(1位数をかけるかけ算と何十をかけるかけ算)に基づくこと、また、これが分配法則によっていることに気付く。
- かけ算の筆算の意味(部分積を書く位置など)を理解する。

### 単元構成の意図

本単元では、(2,3位数×2位数)のかけ算の意味や計算の仕方を考え、理解した上で、筆算の仕方を定着させることを目指している。筆算の定着を図るには、機械的な作業としての筆算だけではなく、部分積の意味を理解することを大切にしていかなければならない。そのため、かけ算における既習事項を利用しながらの学習が求められる。

これまでに児童は、第2学年において、「同じ大きさ」の「いくつ分」として、かけ算を学習している。そして、数図ブロックの操作やアレイ図を使って、九九を構成し、覚える練習をしてきている。さらに、「九九のきまり」や第3学年「九九の表とかけ算」の単元で、乗法の交換法則や乗数の増減と積の変化、10、0のかけ算を学習している。

これらの既習事項を生かして、2学期には(2,3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考える学習をしてきた。九九の結果を表す数値が、具体的にどれくらいの大きさを表しているのかを、確かめながら学習を進めた。本単元においても、九九によって出された数値の量感を、具体的に表しながら学習を進めていくことで、筆算の仕方を理解することができる。

【第2次 第4時】

主な学習内容

≪ 2位数×2位数（部分積が3けた）の計算の仕方を理解する。 ≫

- ・部分積が3けたになる筆算の仕方を言葉で説明する。
- ・何十をかける筆算の0の扱い方を考える。

「活用」の力を育てる  
ポイント

- ①既習の1位数をかける計算と何十をかける計算の仕方を図などを使いながら児童自ら考え出す場を設定する。そのために視覚に訴えるような図を活用する。
- ②問題場面の把握・立式・図で考える・筆算の仕方を考えるといった活動場面を順序立てて丁寧に行う。その際、答えを求める結果だけでなく、考え方の過程を大切にす。
- ③図や式で考えたことや2位数×2位数と3位数×2位数の筆算の仕方の違い・共通点について言葉で説明させるようにする。

【第2次 第5時】

主な学習内容

≪ 3位数×2位数の計算の仕方を理解する。 ≫

- ・2位数×2位数の筆算の仕方を基にして3位数×2位数の筆算の仕方を考える。
- ・筆算の仕方を比べ、共通点を見つける。

「活用」の力育成のために

- ・2位数×2位数の計算の仕方を振り返り、図や式や言葉で考え方を表現する。
- ・2位数×2位数と3位数×2位数の筆算を比べ、違いや共通点を説明する。

【第3次 第6時】

≪ 2位数×2位数の計算や3位数×2位数を用いる適応題に取り組み、習熟を図る。 ≫

- ・2位数×2位数の計算や3位数×2位数を用いる適応題に取り組む。

評価問題



HOME

本時の流れへ

授業展開例へ